

あ

「あ行」の天草方言 「天草方言集 鶴田 功著」

あ… あー… 〈嗚呼〉 Ah! (感嘆詞) 「あーくたぶれた」
 あーあ がっかり 残念 疲れて気が抜ける 気落ちする
 あーい あい 古語【あーい】 はい(返事) ②そうです yes
 あーく 古語【飽く】 飽きる ②満足する 心行く (短音長呼)
 あーし 【足】 物の本体を支える部位《新和》(短音長呼)
 あーしえろこうしえろ あれやこれやしなさい 色々指示する
 あーしんど 〈嗚呼辛勞・心勞〉 あー疲れた
あーた あた あんた 【貴方 貴男 貴女】 you ②夫の呼称
 あーたえ あーたげ あんたげ 【貴家】 貴方の家
 あーだこーだ あーのこーの あれやこれや あれこれ
 あーたし あーたち あんたち 【貴方衆 貴方達】 あなた方
 あーたもあーた あなたとしたことが あなたらしくもない
 あーっこ …こいしょ あよっこい (感嘆詞) あら嫌だ ②弱ったな
 あーぼんか あぼんか 歩きなさい《牛深》
 あーゆふうじゃ あいふうじゃ あの様子では
 あーんせろ 口を大きく開け (幼児語)
 あい【有る 在る】 「こけあいと」《有明・牛深》〈る→い転音〉
 あい〈彼 彼奴〉 chap he [あの人] の卑語《牛深》
 あい【間】 古語【間】 合間 interval 間合い 隙間 ②中間 middle
 あい【鮎】 川魚〈ゆ→い転音〉
 あいーた あいーや はてどうしたものか さて困った
 あいーにや あいにや 〈間には〉 ②中には
あいーろ あうどかにや あうどかね 会うだろうか
 あいえーて 間をおいて 暫くして 間隔を取って ②後で
 あいおい やっと ようやく ②なんとか《高浜》
 あいか あいかい あるか ありますか
 あいかた 古語【相方】 相棒 partner 相手
 あいがと あいがつ 彼の物《牛深》
 あいがや あるじゃないか あるはずだよ《牛深》
 あいき 競い合う 競争 張り合う 対立する
 あいぎやけえ あいげえけえ《五和》 会いにお出で
 あいきよ あいきよう 古語【愛嬌】 愛敬 愛想 会積えしゃく
 あいけんが であるから だから《有明》
 あいこ【お相子】 tie 引き分け 勝負が付かない 互角
 あいさつにん 〈挨拶人〉 口先だけの人 上辺だけの人
 あいしこ あいだけ 在る限り 在るだけ《牛深》
 あいじゃーた あいでーた 会うことができた

あいしょう【相性】 男女の気性が合うこと ②性格が合う

あいしょんわるか 性格が合わない 性格の不一致

あいそ《京》 あいそう 古語【愛想】 親しみ ② 勘定

あいそなしで お持て成しができませんで (挨拶詞)

あいそもこそもなか あいそもなか あいそんなか

古語【愛想もこそも尽き果てる】 すっかり嫌になる

あいそんなか 愛嬌がない 可愛げがない 無愛想

あいそんよか あいそうんよか 応対や持て成しが良い

あいた【飽きた】 程度が過ぎて嫌になる 倦む《京》

あいた あいたし あいたよし 古語【あ痛しこ】 アッ痛い

あいたしもた アッしまった あら失敗した (感嘆詞)

あいたか あいてやー あおごたる 逢いたい

あいたぎやー あいたげー【相違い】 お互い様

あいださん 会えない 会う時間がない

あいちゃがや …ちゃんば …とさな 有るのですよ《牛深》

あいつあ あやつあ ありやー【彼奴】chap〔彼は〕の卑語

あいで だから それで でも《有明・牛深》

あいで 在るから 有るから《有明・牛深》

あいでさな だからですよ ですから《御所浦・竜ヶ岳》

あいと あいとさな あいとぼな あいばな ありますよ《牛深》

あいどが あいどもん あるでしょう《牛深》

あいと おいと わい 彼と俺と君《有明・牛深》

あいと こいと そいと あれとこれとそれと《牛深》

あいどん〈併し 然し〉but だけど でも《牛深》

あいどん 彼ら 奴ら《有明・牛深》

あいなか 古語【間中】 合間 interval 中間 between

あいなきやー あいなけー《佐伊津 五和》 間に 中間に

あいにや あいまにや 中間には 傍らには 時には

あいノて 古語【間の手】相槌 ②片手間 時たま sometimes

あいばえん あいばきらん 歩けない《牛深》

あいばって あいばってん そうだけど でも

あいばん あゆばん 歩かない 歩こうとしない

あいばんか あいべ あゆべ 古語【歩べ】 歩け

あいびあいび あゆびあゆび 歩きながら

あいびえん …きらん あゆびえん あゆびきらん 歩けない

あいびつけとる 歩き慣れている 常々歩いている

あいぶ 古語【歩ぶ】 歩く walk ②何かをして廻る

あいふうなる あいふうなるば あんな状態ならば

あいふに ああいう風に あのように

あいべ あゆべ 歩け 行きなさい

あいぼうだ あゆぼうだ 歩きましょう 歩こうよ

あいぼれ 古語【相惚れ】相愛 お互いに好きになる《京》

あいま【合間】interval 物の間 ②時間 time《京》

あいみたぎゃー あいみたげー 古語【相身互い】 お互い様

あいみやー【歩み合】 歩み寄り 譲歩する

あいもん【間物】 中間服 夏と冬の間に着る服

あいもん あえもん 古語【和へ物】《京》

和え物 vegetable salad 野菜を酢味噌で和えた料理

あいもんなむる 和え物を食べる

あいや 古語【あいや】 否々それは違う ちょっと待った

②あれあれ やれやれ 「あいや雨ばい」

あいやも さては あらまあ はて困った oh! my god

あうがな 会えますとも 会えますよ

あうみゃー あうめー 会うまい ②会わないだろう

あうゃーだ あゑえーだ あゑゃーだ【扇いだ】 風で煽った

あうん《梵語》ahûm 古語【阿吽】 相對の語〔呼吸 善悪 表裏〕の意

あえ 古語【饗】^{あへ}酒食の持て成し 宴 ^{うたげ}饗宴 ^{きょうえん}

あえーた あやーた 物を落とした (汚れを)落とした

あえじゃーた あえでーた (雨が)降り出した

あえた 落ちた 落雷 落果 降雨 汚れが落ちた

あえでなおった 少し降って止んだ 天気を持ち直した

あえもん 古語【和へ物】《京》 和え物 vegetable salad

野菜を酢味噌で和えた料理

あえらいた あえらした あえらった 落雷した (事象敬語)

あえる あゆる《日ポ》 古語【落ゆ】^あ落果 落雷

②汚れが落ちる ③熟して落ちる ④降る

あえる 古語【和へる】^あ 齧える 食材を混ぜ合わせる make salad

あえん 落ちない ②取れない 除去できない

あえん 古語【会えぬ】 会えない

あおー あおあおばー あよー (感嘆詞) あらまー おやおや《牛深 高浜》

あおあおなった 青味が増した 更に青くなった

あおうば あうとなろー あうとなろば 会うならば

あおか【青い・緑色】blue ②未熟だ green

あおぐ 古語【喘ぐ】^{あへ}pant 息を切らす 息苦しくなる

あおくさか【青臭い】 生しい 青豆の味 ②未熟だ green

あおざむる〈青褪める〉 顔の血色がなくなる 血の気が引く

あおし あおすったん 熟れていない果物 ②顔色が悪い人

あおじご〈青尻〉蒙古斑

あおじろか 青白い pale ②顔の血色がない

あおた あおだ【青田】^{しゅつすい} 出穂 前の稲 ②未成熟 green

あおたるる あおたれ〈青垂れる〉 顔色が青白くなる
あおてんじょう【青天井】青空 blue sky 晴天 fine weather
あおなきなれ おおなけ あおむけ 仰向きになれ 上を向け
あおなく 古語【仰あおのく】 仰向く look up 《日ポ・京》
あおなる 青くなる ②(恐怖で)顔面蒼白になる《京》
あおにしや【青二才】greenhorn 未熟者 若造 若輩 youth
あおにやーて あおむきなって 仰向いて 上を向いて
あおばな〈青漬〉 青味がかった漬 はな 鼻汁
あおびき 雨蛙
あおびゅうたん〈青瓢箪〉 ②瘦せて顔色が悪い人
あおむく 仰向きになる
あおもん【青物】 野菜 vegetables ②鯖などの魚類《京》
あおやしやー あおやせー【青野菜】 青菜 greens 葉野菜 けしか
あおる【煽る】fan 強く扇ぐ ②喉ける《日ポ・京》
あか あかご〈赤児〉 赤ちゃん 乳児 baby 《京》
あか【滄】 舟滄 舟底に溜まった水
アカ 《梵語》argha 古語【闕伽あか】 仏前に供える水
あかあか より明るく 煌々と
あがーん あぎゃん あげん あの様な あれ程の
あかい【明る】《牛深》〈る→い転音〉
あがい【上がる】go up 高い所へ移る ②雨が止む《牛深》
あかか あきやー あつか【赤い】red ②明るい bright
あかがね〈銅〉copper しんちゆう 真鍮 赤褐色の金属
あがく 古語【足搔く】 もがく 手足をばたつかせる
あかくる〈滄繰る〉 舟滄を汲み出す
あかさいた あかさした 証明した 打ち明けた
あがささ あがんなごう あのように長時間
あかし 古語【明かし 灯】 灯火 燈明 み明かし light
あかし 古語【証あかし】proof 証明 証拠
あがしこ あぎやしこ あんだけ あれ程 あれだけ
あがしこだ あぎやしこだ あれ位は
あがしこんこつ あぎやしこんこて あぎゃんも あげんも あのように沢山に
あかしんによ〈赤信女〉 未亡人
あかする【飽かす】 飽くほど 充分に ふんだんに
あかちよこべー あかべー《京》 あかんべー 古語【赤すかべい】 赤目
②反目の仕種 嫌だね
あがったり〈上がったり〉 すっかり駄目になる 切羽詰まる《京》
あがっだん【上がり段】 玄関から部屋へ上がる段
あかつとる 戸が開いている ②施錠してない
あかつち【赤土】 赤い土 壁材の土 陶土 粘土 clay

あかでにゃ あかでん あかんで 飽きないで
あがなう 古語【贖^{あがな}ふ】 弁償する 償^{つぐな}う
あがにゃ あがんにゃ あぎゃんにゃ あげにゃ あんなには
あかぬけとる 垢抜けている 都会的だ
あかねすい 得する ②儲かる《牛深》
あかノたにん【赤の他人】 自分と全く関係のない人
あかはぢかく 古語【赤恥^{はぢ}】 人前で大恥をかく
あかはぢきゃーた あかはぢけーた 恥かしい思いをした
あかばちかやる 顔色が紅く火照る
あかはら【赤腹】 井守 イモリ科の両生動物 ②赤痢
あかべー【赤目】 あかんべー 拒否や軽蔑の表現《京都》
あがむ あがむい《牛深》あがむる 古語【崇^{あが}む】 尊敬する
あからさま 古語 明白 clear 露骨 公然 あらわに
あからさみゃー あからさめー 明白に 露骨に 公然と
あからす 明かる 晴天になる（事象敬語）
あがらす お上がりになる 昇級なさる ②当選なさる
あからん《京》 あかん 古語【開かぬ】 扉が開かない 施錠してある
あかり【明かり 灯】電灯 照明 illumination 光 light
あがり 上納 ②上達 advance ③終業 ④当選 election
⑤卒業 graduation ⑥game set《日ポ・京》
あがり【挙がり】 挙げ句 何かをした末 ②食後のお茶
あがりがまち 古語【上り^{かまち} 框】 上がり段の框
あがりぐち【上がり口】 玄関から部屋へ上がる所
あがりはな あがりばな 終業直後 仕事終了直後
あがりまっしょい あがりやしゅい 仕事を終わりました
あがりゆ【上がり湯】 掛かり湯 入浴後に使う濯ぎ湯
あかる 古語【明かる】 光が射す 晴れる clear ②雨が止む
あかる【開かる】 open 扉が開く ②扉を施錠してない
あがる【上がる】 go up 伺う ②昇格 ③当選 ④雨が止む
⑤蚕が繭をつくる ⑥事を終える ⑦生理が終わる《日ポ・京》
あがる【揚がる】 lift 揚げ物が煮える
あがろい あがろだ あがろだな あがろわい 仕事を終わりました
あかん 古語【開かぬ】 開かない ②空気が無い
あかん 古語【飽かぬ】 飽きない 退屈しない 飽きがこない
あがん あぎゃん あげん あの様に あれ程の あんなに
あかんがー あかんとん あかんとん 開かないが
あかんこつ あかんにゃー 飽きないこと よくも飽きないね
あがんこつ あぎゃんこつ あげんこつ あんなこと
あがんこつば あぎゃんこつば あげんこつば あんなことを
あがんで あぎゃんで あげんで あんな物に ②あんな奴に

あかんと あきやつせんと 飽きないのです ②懲りません
あがんと あぎゃんと あげんと あの様な物
あがんとこる あぎゃんとこる あげんとこる あんな所
あがんとこれ あぎゃんとこれ あげんとこれ あんな所へ
あがんとば あぎゃんとば あげんとば あんな物を
あがんなつせ あがんなはりまつせ お上がり下さい
あがんなつせ お召し上がり下さい 食べてください
あがんなはる あがんなる《京》 お上がりになる
あがんにゃ あぎゃんにゃ あげんにゃ あんなには
あき【空き】 空間 間隙 **space** ②余裕 **room** 暇な時間
あぎ あご あごた 古語【顎】 **chin** 顔の下部
あきあきした【飽き飽き】 すっかり飽きた
あきあさま あきやさま【秋葉神社】 火難除けの神
あきおち【秋落ち】 収穫時期になって農作物の成育が鈍る
あきぐち あつぐち【秋口】 **early autumn** 初秋
あきご〈秋蚕〉 秋に飼う蚕
あきざくら【秋桜】 コスモス
あきしょう〈飽き性〉 飽きやすい性質
あきず あけず【蜻蛉】 トンボ
あぎたたき あごたたき 多弁家 冗舌家 **chatter**
あきたらでにゃ あきたらんで 古語【飽き足らず】 不十分で
あきなう 古語【商ふ】 商売する 物品の売買をする **trade**
あきにゃー あきねー 古語【商ひ】 商売 物の売買 **trade**
あきみず【秋水】 半夏水 洪水
あきもせーでにゃ …せーでん …せんで 飽きもしないで
あきやー あつか【赤い】 **red** ②明るい **bright**
あきやーもん あけーもん 赤いものだ 明るいものだ
あぎやしこ あげしこ あしこ あれだけ あれ程
あぎやしこんこつ あげしこんこつ あんなに沢山に
あきやした 飽きました ②懲りました
あぎゃにゃ あぎゃんにゃ あげにゃ あげんにゃ あれ程は
あぎゃん あげん あれ程 あの様に あんなに
あぎゃんと あげんと あの様なもの
あぎゅうごたる 嘔吐を催す ②辟易する 嫌気がさす
あきらむる 古語【諦む】《梵語》 諦める **give up** 思い止まる 断念する
あきるい《牛深》 あきるる 古語【呆る】 呆れる
あきれかえる【呆れ返る】 すっかり呆れる 言いようがない
あきれはつる【呆れ果てる】 呆然とする 呆気にとられる
あく 古語【飽く 厭く】 飽きる 心行く 満足する《京》
あく 古語【灰汁】 **lye** 野菜から出る渋い液

あく 古語【開く】^あopen ^{ひら}開く 「店ン開く」
あくあーんと〔擬態語〕^{オノマトペ} 啞然と ぼんやりと 気が抜けて
あぐい 古語【上ぐ】 上げる lift ②与える give 《牛深》
あくごう 古語【悪業】^{あくごふ} 報いを受ける様な悪事(仏教語)
あくささ あくはざ 飽きるまで 心行くまで
あくしえー あくしやー 古語【悪性】^{あくしやう} 迷惑 厄介 辟易する ②酒色に耽る^{ふけ}
あくしえうつ あくしやうつ^{あく} 倦む 持て余す うんざりする 辟易する
困り果てる 迷惑する 嫌になる 厄介だ
あくしえ(せ)く せかせか じたばた《京》
あくしえ(せ)もん あくしやもん 厄介者 邪魔者 放蕩者
あくしえ(せ)なもん あくしや… 厄介だね 邪魔 持て余す
あくしこ 飽きる程 潤沢に 沢山に 満足な量 ②長い時間
あくそ あくそう【悪瘡】^{あくそう} 化膿 ②腫瘍^{かさ} 瘡
あくぞもくぞ 近世語【芥】dust 藻屑 ②無益な物《京》
あくた《京》 あくたぎれ 近世語【芥】^{じんあい}塵埃 dust 塵 屑 waste
あくたう 古語【悪態】 悪口雑言を言う 罵る 誹る
あくだま あくたれ【悪玉】villain 悪人 心の悪い人
あくたれ あくちゃー あくてー【悪態】 悪口
あくたれもん 悪口を言う者 罵る者
あくちゃーづく あくてーづく【悪態】 悪口を言う 罵る
あくつくり〈悪つくり〉 相手に害を及ぼす 憎悪感を与える
あぐっちえーて あぐっちやーて 口を開いて ②傷が開いて
あぐっちやく^{あくち}【開口】 口を大きく開く ②傷が開く
あぐっちやけ【開口】^{あくち} 口を大きく開け
あくてー【悪態】 悪口
あくどか 古語【悪どし】 悪どい 諍い^{くど} しつこい 質が悪い ②味が濃い
③色合いがどぎつい
あぐぬる あぐねる 近世語【あぐねる】 倦む 持て余す 嫌気がさす
うんざりする
あくばる 持て余す 嫌気がさす うんざりする
あぐま ^{わんどう}湾洞 魚が棲む岸の洞穴 魚の住处 窪み
あくまっでん 飽くまでも 最後まで どうしても
あぐむ 古語【倦む】^{あく} 飽きる 持て余す 嫌気がさす
あぐら 古語【胡座】^{あぐら} 足座 安座 正座を崩す《京》
あぐらかく 古語【胡座】^{あぐら} 足を組んで座る《京》
あくりょう 古語【悪霊】^{あくりやう} 怨霊 物の怪 祟りの霊
あくる 古語【明く】light 夜が明ける ②年や期間が終わる
あくる 古語【開く】 開ける open 開放する ②営業開始
あくる 古語【空く】 空ける 空間を作る ②暇ができる
あぐる 古語【上ぐ】lift ②供える ③与える give ④卒業させる

あぐる 古語【揚ぐ】 揚げる fry 油に浸して煮る ②高い所へ移す
あぐる 古語【挙ぐ】 挙式 perform ②名声を高める ③検挙する
あぐる 嘔吐する 反吐 食べたものを戻す
あくるあさ〈明朝〉 翌朝 一夜明けた次の朝
あくるどし〈明年〉 翌年 次年
あくるひ あけノひ あけンひ【翌日】 next day 一日後
あぐわあぐわ〔擬態語〕 ^{オノマトペ} 大きすぎてブカブカの状態
あくわんとしとる〔擬態語〕 ^{オノマトペ} 啞然としている ②口を開けている
あげ【挙げ】 過ぎて 終わってから 最後に
あげ【西風】 west wind 《鬼池》
あげ【揚げ】 fried food 揚げ物 天麩羅 フライ fry
あげーん あげん あの様な あれ程の
あげあしとる 古語【揚げ足】 trip up ことば尻を取る
あけがた【明け方】 夜明け方 曙 dawn 朝ぼらけ
あげくのさんぱち 古語【挙げ句】 最終的に 結局の処
あけくらす 古語【明け暮らす】 月日を送る ②没頭する
あげしお 上げ潮 満潮
あげしこ あれ程 あれだけ 《五和》
あげしこだ あれ程は あれ位は 《五和》
あけすけ〈明け透け〉 frank あからさま 露骨に《京》
あけせき〈開塞〉 戸や扉の開閉
あげぜんさげぜん【上げ膳下げ膳】 鄭重な持て成し 接待
あけだち 明け方 夜明け方 曙 朝ぼらけ
あげたりさげたり 誉めたり貶したり 煽てたり罵ったり
あげつくる おべんちやらを言う 煽てる
あけっぱなし〈開け放し〉 開放したまま
あけっぴろぐる あけひろぐる 開放する 全開する《日ゴ》
あげつらう 古語【論ふ】 ^{あげつら} 罵る 議論する ^{おだ} 煽てる
あげな あげん あの様な あれ程の《佐伊津 五和》
あけなんこみ 存分に 充分に《竜ヶ岳》
あげにや あげんにや あんなには《佐伊津 五和》
あけはたぐる あけはたげる 開放する 全開する ②広げる
あけび【通草 木通】 アケビ科の蔓性落葉低木
あけむつ 古語【明け六つ】《梵語》 時報の鐘 朝6時
あげもしやっしゅう 古語【上げ申す】 差し上げましょう
あげもす 古語【上げ申す】 供える offer 差し上げる
あげもせ 古語【上げ申せ】 差し上げなさい
あげもそう 古語【上げ申そう】 差し上げましょう
あげもん【上げ物】 神仏へのお供え物 ②僧侶へのお布施
あげもん【揚げ物】 fried food 油で揚げ物 天麩羅 フライ

あげん あの様に あんなに

あげんこつば あげんこつば あんな事を《佐伊津 五和》

あげんと あんなもの ②ことばに詰った時に言う

あげんとこれー あんな所に《佐伊津 五和》

アゴ 飛び魚 トビウオ トビウオ科

あごうっだす 顎を出す へたばる くたばる 伸びる

あこうなる 古語【明かうなる】 明るくなる《京》

あこうなる あこなる 赤面する 皮膚などが紅くなる

あこぎか あこぎなか【阿漕】 貪欲 強欲 悪どい

あごしゃん あごたたき 饒舌家 多弁家 ②有言不実行者

あごた あごたん《京》 古語【顎】 chin 顔の下部

あごだす 弱音を吐く 疲れる 諦める

あごたたき 多弁家 冗舌家 chatter

あごたたく 生意気を言う ②多弁 冗舌 chatter

あごんううか 口数が多い 多弁 冗舌 chatter

あごばかり あごばっかり 口先ばかり 有言不実行

あごんたつ あごんたっしゃか 弁舌に長けている 冗舌家

あごんつこくるごと 顎が落ちる程(美味しい表現)

あごんひやがる 食べていけなくなる 生活が困窮する

あさい あさる【漁る】 魚貝を採る fish 《牛深》

あさおり あさおれ あさがた【朝折】 朝の時間に

あさか あしえ(せ)ー あしやー【浅い】 shallow

あさがけ 古語【朝駆け】 早朝に事を済ます ②不意打ち ③朝方

あさくさきり〈朝草刈り〉 早朝の草刈り

あざくる 古語【嘲^{あざけ}】 あざ笑う 人を小馬鹿にする

あさごち 古語【朝東風】 朝吹く東風

あさごつとき 朝極早い時刻 早朝に early morning

あさしごつ【朝仕事】 早朝からする一仕事

あさだち 古語【朝立ち】 朝早く家を出る ②朝に勃起する

あさぢえ【浅智慧】 知恵が足りない 考えが浅い

あさぢや〈朝茶〉 朝の来客に接待するお茶

あさって 古語【明後日】

あさってんほう 方角違い

あさっぱち …ぱら …ぱり …ぱる 古語【朝腹】 早朝 ②朝食前

あざとか 近世語【あざとし】 浅はか 知恵が浅い

あざな あだな 古語【字 渾名】^{あざな} ^{あだな} nickname 愛称 通称

あざなう 古語【糾^{あざな}う】 twist 縄を緲^なう 撚り合わせる

あさなゆうな 古語【朝な夕な】 朝夕に 朝晩 ②何時も

あさねごろ あさねぼう【朝寝坊】

あさはか 古語【浅はか】 考えが浅い 浅薄 軽率 ②未熟

あさましか 古語【浅まし】 卑劣だ 見苦しい 情けない さもしい
あさまじみ あさまずめ 古語【朝朗^ほらけ】 曙 夜明け《御領》
あさまらんたつ 朝に魔羅(ペニス)が勃起する
あざむく 古語【欺く】 **deceive** 裏切る だます 見くびる
あさめし【朝飯】 朝食 **breakfast**
あさめしまえ【朝飯前】 朝食前 簡単なこと 容易なこと
あさる 古語【漁る】 **fish** 魚貝を採る ②搔き回す 捜す《日ポ》
あざる 古語【あざれる】 巫山戯^{ふざけ}る ②飽きる
あざれとる【巫山戯る】 飽きる 辟易する うんざりする
あざわるう 古語【嘲笑^{あざわら}ふ】 軽蔑笑い 嘲り笑う
あしあるう 《梵語》下賤な仕事を止めて堅気になる
あしいれ あしいれこん〈足入れ婚〉 婚儀の一
あしえ あしえしゆづく【汗滴^{しずく}】 汗水 **sweat**
あしえー あしやー【浅い】 経験が少ない 色や味が薄い
あじえ【畦】 畦畔 田と田の間を仕切る盛土
あしえい あしえくい 搔き出す ②詮索する《牛深》
あしえい【焦る】 気をもむ 苛立つ《牛深》
あしえがる あせる【焦る】 急き立てる 気をもむ
あしえがれ〈焦れ〉 急げ **hurry up**
あしえがんな 焦るな 急ぐな
あしえくる 搔き出す ②詮索する 隠してある物を探す
あしえぶ あしえぼ【汗疣^{あせも}】
あじおうて〈味合う〉 味わって
あしかけ 古語【足掛け】 ②年月をまたがって 通算して
あしぎ〈足木〉 稲架の支柱《京》
あじくう あじくろう〈味喰らう〉 あじしむる 癖になる 調子づく
あしくずしなっせ 正座を崩して安座になさいませ
あじくろた あじしめた〈味占めた〉 癖になった 調子づいた
あしけ あすけ あっけ 古語【彼処^{あしこ}】 あそこに
あじけなか あじけにや あじけむなか あじけンなか 古語【味気なし】
物足りない 張り合いがない 面白味がない
あしけにや あすけにや あの場所には
あしこ あすこ あっこ 古語【彼処^{あしこ}】 **there** あそこ ②陰部
あしこしゃたたん〈足腰立たぬ〉 疲れ切って足腰が動かない
あじしむる 〈味を占める〉 癖になる 調子づく
あしじゃーた あしで一た ②赤字を出した 欠損
あしつぎ 古語【足継ぎ】 踏台 梯子《日ポ・京》
あしでまとい【足手纏い】 仕事の邪魔
あしとる 揚げ足を取る **trip up** ことば尻を取ってなじる
あしなえ〈足萎え〉 足が不自由である 正座して足が痺れる

あしなか【足半 足中】 爪先だけの草履
あしノさき あしンさき【足の先】 足の指先 爪先
あしノつつぱる あしンつつぱる 足が痙攣する
あしノつと【足の苞】 脛（脛が藁苞に似ている）
あしノはら あしノひら【足の腹】 足裏
あしひっぱる【足引っ張る】 ②妨げる 妨害する
あしふみ〈足踏み〉 足踏み式脱穀機 ②足踏み式ミシン
あしふみざきもなか あしふみざきやなか 踏み入る隙がない
あじもささらもなか …しゃしゃらもなか …すすらもなか 味気ない
あじもせせらもなか あじもそっけも… 味気ない 無味
あしもてーもおよばん 相手の力に及ばない
あしもとみすかす【足下見透かす】 相手の弱点を見破る
あしやー【浅い】 経験が少ない 色や味が薄い
あしやーぼうになる 足が疲れて堅くなる
あじゃらーっと 雑に 仮初めに 簡略に
あしらう 古語【あしらふ】 **arrange** 待遇する ②取り合わせる
あじろ 古語【網代】 漁場
あすーっけ あすーでけ あすっけ 遊んでこい
あすーっさるく あすっさるく 遊び回る
あすーどらん あすどらん 遊んでいない ②常に働いている
あすーどる あすどる 遊んでいる ②使用していない ③失業中
あすかー あすこは 彼処は あの場所は
あずかりしらん 全く関与しない 無関係だ
あずきめし 小豆ご飯
あすけ あすこさにゃ あすこさね あすこさん あそこへ
あすこ あすこらへん【彼処】
あすこんど あの家の所有物 あそこの物
あすっぎゃけーなー あすびぎゃけーなー 遊びにおいでよ
あすなさ【明日の朝】 明朝 **tomorrow morning**
あすばかす あすばする あそばする 古語【遊ばす】
遊ばせる ②使用しない ③休ませる
あすばすんな 遊ばせるな ②休ませるな
あすばせちくれ あすばせっくれ 遊ばせてくれ
あすばせん あそばせん 遊ばせない ②休まないで使用する
あすばれん あそばれん 遊ばれない 遊んでる暇がない
あすばん あそばん 遊ばない ②休まない
あすび【遊び】好きな事で楽しむ 仕事をしない ②間隙《京》
あすびあすび 遊びながら 遊び半分に
あすびがてら あそびがてりやー 遊び序でに《日ポ》
あすびぎゃけー あすびげけー 遊びに來い

あすびごつ【遊び事】 散漫な仕事振り
あすびだろう 放蕩者 無就労者 プウタロウ《台湾》
あすびどうぐ〈遊び道具〉 玩具 toy
あすびなし 休憩なし 無休で働く ②間断なく使用する
あすびなっせ お遊び下さい ごゆっくりなさってください
あすびにん〈遊び人〉 身持ちの悪い人 無職人
あすびふうける あすびほうくる《京》〈遊び惚ける〉 遊びに夢中になる
あすびほどき 遊び半分に 不真面目 不熱心
あすびまくる〈遊び捲る〉 大いに遊ぶ
あすびンある 余裕がある ②間隙がある
あすぶ 古語【遊ぶ】play 好きな事をして楽しむ ②使用しない《京》
あすぶみゃーだ あすぶめーだ 遊ばないことにしよう
あすべ あすべな〈遊べ〉 遊びなさい
あすぼい あすぼだ あそぼい あそぼだ 遊びましょう
あずまや〈四阿〉 庭園にある屋根付き壁無しの休憩所
あする【褪せる】fade 退色する 色がさめる
あすんどる あそんどる 遊んでいる ②使用していない
あせ (あしえ) あせしゅづく【汗滴】 汗水 sweat
あぜ (あじえ)【畦】 畦畔 田と田の間を仕切る盛土
あせい (あしえい) あせくい 掻き出す ②詮索する《牛深》
あせい (あしえい) 【焦る】 気をもむ 苛立つ《牛深》
あせーもん あしやーもん 浅いものだ 浅いね
あせがらん 焦らない 急がない ゆったりする
あせがれ (あしえがれ)〈焦れ〉 急げ hurry up
あせがんな (あしえがんな) 焦るな 急ぐな
あせきやーて あせけーて 苦勞して 努力して 働いて
あせくつつらかす あせくる 掻き回す ②詮索する 隠してある物を探す
あせくん な 掻き回すな 掻き出すな 詮索するな
あせごいか〈汗濃い〉 多汗症 汗っかき ②色魔
あせじゅっくり あせびっしょり 汗まみれ 汗みどろ
あせったくる 掻き回す ②詮索する
あせとり〈汗取り〉 肌着
あせぶ (あしえぶ) あせぼ《京》【汗疣】^{あせも}
あぜまめ【畦豆】 田の畦畔に植える大豆《京》
あせみず 汗水 sweat 汗滴^{しずく} 汗みずく 汗みどろ
あせる 古語【漁る】 魚貝を採る ②掻き出す 詮索する 物を探す
③穀物を手返して干す《日ポ》
あせる【焦る】 気をもむ 苛立つ 慌てる
あせん な 急くな 慌てるな
あせん な 掻き混ぜるな ②詮索するな

あそなる あそなる 浅くなる

あた あんた【貴方 貴殿】you ②夫の呼称

あた 古語【徒】 悪戯 邪魔 虚しい《日ポ》

あだ 古語【仇 敵 賊】 仇敵 敵 ②仕返し 恨み

あだがね 近世語【徒銀】 無駄金

あたかも【恰も】 丁度 まるで さも

あだがりゃー あだがるか 塩辛い しょっぱい

あだぐち 古語【徒口】 無駄口《京》

あたこつ あたこと あたこつ 古語【徒事】 悪戯 邪魔

あたじゃー〈慌しく〉 狼狽して うろたえて《日ポ》

あだじろか 古語【婀娜白し】 妖艶な白さ なまめかしい白さ

あたする 古語【徒】 悪戯をする 邪魔する 無益なことをする

あだちいて 古語【徒付く】 浮気心を起こして 浮ついて

あたっちらかす あたっつらかす 誰彼無く突っかかる

あたっどし【当たり年】 果物等が豊作の年

あだな 古語【徒名 仇名】 綽名 通称 愛称 **nickname**

あだになる 古語【徒】 無駄になる 悪い結果になる 疎かになる

あたばっかりして 古語【徒】 悪戯が過ぎて

あだばえ【徒生え】 播種しないのに自然に芽生えた苗

あだばな 古語【徒花】 結実しない花 無益な花

あたまうち 上限 限界 行き詰まり **dead end**

あたまうっだす 悩みや心配ごとで頭が痛む

あたまかず〈頭数〉 員数 **number** 人員 人数

あたまから 最初から 一番から 端から

あたまごなし〈頭熟し〉 決めつけて叱る がみがみ言う

あたまつかう 思考を巡らす よく考える 頭脳労働

あたまつむ〈頭摘む〉 散髪する 髪を切る

あたまにくる あたみゃーくる あためーくる 癩癩に障る カッとなる 立腹する

あたまわり〈頭割〉 人数割り ②均等割り 割り勘《京》

あたまんしんノいたか 頭の芯が痛い

あたみゃーくる あためーくる 癩癩に障る カッとなる 立腹する 逆上する

あたらしかつがよか 新品がよい 「暈は…」

あたらしもん【新品】 未使用品 ②珍品 ③処女 **virgin**

あたらしゅうあたらしゅう 常に新しく 更新して

あたらん 当たらない 接触しない ②命中しない

あたり【辺り】 周辺 **circuit** 付近 側 **side** 傍ら《京》

あたり【当たり】 人当たり 応対 **interview** ②計測

あたりがさぶろう〈当たりが三郎〉 くじ運 当たりくじの運

あたりかんまず【当たり構わず】 周囲に気を配らないで

あたりきんぺん【辺り近辺】 周辺 **circuit** 近隣

あたりこっぺ【辺り一面】　そこらじゅう
あたりさわり【当たり障り】　差障り　支障
あたりつらかず【辺り散らす】　八つ当たりする
あたりノよか　あたりンよか　人当たりがよい　社交上手
あたりめ　スルメ　(験担ぎ)
あたる【当たる】　該当する　②担当する　③ぶつかる　突っかかる　③計測する
あたる〈中る〉　的中する hit　②中毒する「鯖にあたる」
あたる　暖まる　暖を取る《京》「火にあたる」
あだるる　あだれる　飽きる　辟易する　閉口する
あたん　頭　「あたんノいたか」(幼児語)
あたんなる　あちやんなる　あてんなる　古語【徒】^{あた・あだ}　邪魔になる
あたんノやわらしか【当たり】　人当たりが良い
あちー　あつか　あつたか【暑い】　②熱い hot
あちーもん　暑い　暑いものだ　熱いものだ
あちやー　あら　あらまあ　おや　おやおや
あちやさん【阿茶さん】　唐人　〔中国人〕の呼称
あっ　あつだ　あつどま　あやつだ　あれ等　〔彼ら〕の卑語
あつう　あつうに　厚く　厚めに
あつうあつう　厚めに　より厚く(重複強調)
あつうして　あつうて　暑くて　熱くて
あつうげん　厚く　厚めに《楠浦　下浦　新和》
あつか【厚い】thick　②人情がこまやか hearty
あつか【赤い】red　②明るい bright《京》
あつかいにくい　あつかいにつか　あつきやーにつか　扱いにくい　使い勝手が悪い
あつかう　古語【扱ふ】　物を使う　物や人を操る　弄る
あつかうな　触るな　手を触れるな
あつかましい《京》　あつかましか　遠慮がない　凶々しい
あつかまっさー　厚かましいことだ　凶々しいね
あつがれ【^{あかざれ}皸】　冬に手足の皮膚が割れて痛む
あつがれンつつく　皸が突つつくように痛む
あつかる【預かる】あづかる keep　頼まれ物を保管する　処理を引き受ける
あつくる　あづくる　古語【預く】deposit　預ける
あつくるしか〈暑苦しい〉
あつくわりすつじえ　がっかりだ　拍子抜けだ　気落ちした
あつけなか〈呆気ない〉　物足りない　張り合いがない
あつけらかん　古語【あけらかん】　平然とした様子《京》
あつけん　あるけん　あるせん　あるから　あるので
あっこいしょ　あらよっこい　あら嫌だ　あらまあ
あっこうづく【悪口】　暴言を吐く　罵る
あっこうて　取り扱って　使用して　操って

あっさいしとい (性格や味が)さっぱりしている 《牛深》
あっさらーとして (気性や味覚が)淡白で さっぱりして
あっさりぐわっさり〔擬態語〕 さっぱりとして拘わりがない
あっさりしとる (性格や味が)さっぱりしている
あっじゃっか あっじゃっけー あるもね 有るではないか
あっじゃどうい あっじゃどうし あれではどうして
あっじゃろう ありじゃろう 彼だろう ②あの子ったら
あつたーし あつたース あつたし 古語【熱し】 熱いっ
あつたいや あつたかい あつたんな …ね 有ったのか
あつたか【暑い】 ②熱い hot
あつたかい あつたきゃー あつたけー ありましたか
あつたかて あつたかてー あつたかどに 暑いのに
あつたかなー あつたかにゃー あつたかねー 暑いですね
あつたかなー あつたなー あつたねー 有りましたか
あつたかめーにあう 暑い目に遭う 暑い思いをする
あつたからすどで あつとうあんなすどで お暑いでしょうに
あつだけ あれしこ あれだけ 《京》
あつだけ あるしこ あるだけ ある限り 在庫全部
あつたさー あつちー あつてー あつてゃー 暑いな ②熱いなー
あつたしゃー あつたせー(しえー) 暑さに 暑がって
あつたせんか あつたで あつたでか あつたんで あつたので
あつたつ あつたと ありやしたと あつたのです
あつたっがー あつたっぞー あつたっばえ あつたのだよ
あつたっじゃっとん あつたとん あつたのだが
あつたったもん〈有り足りた物〉 身近にある物
あつたっちゅうかい あつたろうかい あつたのだろうか
あつたっどもん あつたでしょう
あつたつな あつたとな あつたんな あつたのですか
あつたてー あつたとこれ あつたもね 有ったのに
あつたとー あつたっかい …きゃー …けー あつたのですか
あつたまる【^{あたた}暖まる】 暖かくする 部屋などを適温にする
あつたむる あつためる【^{あたた}温める】 食品などを加熱する
あつたもね あつたではないか
あつたらしか 古語【^{あたら}惜しい】 惜しい ②勿体ない
あつたりーろ あつたりろ あつたろかい あつただろうか
あつたろう あつたろうば あつたろば 有ったならば
あつたろが あつたろもん あつつろが 有ったでしょう
あつたろかい あつつろかい 有ったでしょうか
あつち【彼方】 there 余所 あちら ②外国 《京》
あつちー あつちさね あつちさん あつちちゃん 彼方へ

あっちいたとけ あっちいたとれ 彼方へ行っておれ
あっちぐち あっち側 先方 余所 他所
あっちこっち 処々方々 あちらこちら 《京》
あっちさね あっちさん あっちゃん あっつあん 彼方へ
あっちびんた あっちべた あっちべら 《京》 向こう側
あっちみーて あっちみて 彼方を向いて
あっちみーとる 脇見している 他所を向いている
あっちみーてろ あっちみんみろ 彼方を向いてご覧
あっちむき 反対向き 余所向き ②不向き
あっちゃいて 有るのに 有ったのに 《佐伊津 牛深》
あっちゃいろ あっचारukai あっどかい あっどかにや 有るのだろうか
あっちゃかー あっचारかかね 有るのではないか
あっचारかっちゆかい あるのではないだろうか
あっचारこっち あっचारこっちや 《京》 反対に あべこべに
あっचारって あっचारとん あっどん 有るのだが
あっचारならんこつ 不測の事態 不慮の事故
あっचारもん あっचारん あっどじゃん あるのです
あっचारもん あっどね あっどもん 有るのでしょうかね
あっचारん あっつあん 彼方へ あちらへ あっちへ
あっचारん あっどじゃん あります あるのです
あっचारんば 有るのだ 《牛深》
あっちゆかい 有るだろうか
あっつろうば あっつろば 有ったならば
あって あってん あってんが だって でも しかし
あっで だから だって それで でも
あってー あっどこれ あっどに 有るのに
あってえーもん あってやーもん 暑いものだ
あっでが あっでにや だって だけど でも
あっでか あるけん あるせん 有るから 在るので
あっでさい あっでじゃん あっでわい だからだよ
あっでどい あっでどーい だけどどうして
あっでまー あっでにやー あらまあ だって だけど でも
あっでん あっどん だけど だって しかし
あっでんかんじゃ だけど だって 《竜ヶ岳》
あっど あっどばい あっどべー 有る 有るのだ 有ります
あっどー あっどな あっどね 有るのか 有りますか
あっど あっどだ あっどもん 有るだろう 有ると思う
あっどあらゆるもん 有ると思われるすべての物
あっどうい あっどうして あっどうて 暑くて 熱くて
あっどうござすなん あっどうなりやした 暑くなりましたね

あつとうなつた 暑くなつた 熱くなつた
あつどか あつどかい あつどかにや ありーろ 有るだろうか
あつどが あつどもん あろうが 有るでしょう 有るだろう
あつとがー あつとぞ あつとびやー あつとべー 有るよ
あつとさい あつとさな あつとさね あつとされば あるのですよ
あつとたー あつとばい あつとねー 有るのだな
あつどま あつどみや あやつだ 彼らは 奴らは
あつどみ あつどん あやつどみ [彼ら]の卑語 奴等
あつどもん あろうもん 有るでしょう
あつば ありば あるば あれを あの品を あの人を
あつばあつば 大きすぎ ぶかぶか
あつぱつぱ 夏用の簡単服《京》 ②開けっぴろげ
あつひゃー あつへー 熱い灰
あつむる 古語【集む】 集める
あつめにゃん あつめんばん 集めなければならない
あつらゆる 古語【詵ふ】 詵える order ②注文する 依頼する
あつる 古語【当つ】 hit 当てる 割り当てる 言い当てる
あつる あてる《京》 水田に水を張る 「水あつる」
あて 古語【当て】 目的 見込み 頼み ②小楯 ③酒の肴
あてーする 当て込む ②期待する
あてーならん あてならん 期待できない 頼みにならない
あてーんなる 古語【徒】 徒になる 邪魔になる
あてがう 古語【宛行ふ】 割り当てる 与える ②添えて導く
あてぎー あてぎゃー あてげー 古語【宛行ひ】 割り前 仕事配分 役割分担
あてぎゃーぶち 古語【宛行ひ扶持】 割当てた食糧
あてぎゃーは(ワ)あつて 相応の責任感を持っている
あてぎゃーんなか 責任がない 頼みにならない
あてごうていっちょく 与えて任せる
あてこすり【当て擦り】 皮肉 irony 嫌味 面当て ②隣寸《京》
あてすつぽ《京》あてつぽし あてつぽす 当て推量
あてつくだつせ あてなつせ (座布団を)お当て下さい
あてつくる【当て付ける】 hint 面当て 割り当てる
あてつけがましか 言動が皮肉っぽい
あてどん 失せ物や祟りなどを言い当てる術者 占い師
あてならん 期待できない
あてん 当てない 割り当てない 指摘しない
あてんかわんひつちごうた 当て違いした 期待外れた
あてんはずるる あてんはずれる 期待が外れる
あど【後脚・後肢】 踵 踵 heel 足の後部 ②靴の踵
あとあじんわるか 食後に残る不味い味 ②事後の不快感

あとあと【後々】 ずっと後まで 以後永久に 未来永劫
あといり【後入り】 後妻 二番添え **second wife**
あとうえ あとえ あとべ【後追い】 幼児が親の後を追う
あとかい《牛深》 あとかり あとかる 後で
あどかす 掻き乱す《高浜》
あとがま【後釜】 後任 ②後妻 **second wife**
あとくされ【後腐れ】 **after trouble** 事後の揉め事
あとくち【後口】 後味 ②事後の申込 「後ロン悪か」
あとくそんわるか【後糞】 後味が悪い
あとげつ〈後月〉 先月 前の月 去月《京》
あとさき一なる 前後の順序が逆になる
あとさく【後作】 裏作 主要作物の間に他の作物を栽培する
あとしき【跡式】 相続 家督 跡取り
あとじえ(ぜ)き【後塞き】 出入り後に戸を閉めること 戸で塞ぐ(堰く)
あとしのべ【後忍べ】 **settlement** 後片付け ②見苦しいものを隠す
あとすざり あとすだり【後退り】 **step back** 後しざり 後じざり
あとぞい あとぞえ【後添え】 後妻 **second wife**《京》
あとだえ 古語【後絶ゆ】 後絶え 継承者が居なくなる
あととり【家の跡取り】 嫡男 ②跡目 相続人《京》
あとばら 古語【後腹】 出産後の腹 ②一段落した後
あとばらんせく 出産後の腹痛 ②事後処理の出費で気が塞ぐ 後悔する
あとびき【後曳き】 お茶の注ぎ口から滴がたれる
あどふむ あどふんちやぐ【後脚・後肢】 靴の踵を踏み潰す
あどる 言い淀む 言い惑う まごつく
あながち 古語【強ち】 一概に まんざら 必ずしも
あなぐら【穴蔵】 貯蔵用の穴 洞穴
あなじえ(ぜ) 北西の風《大矢野 牛深》
あなどる 古語【侮る】 軽く見る 見下げる
あなまたぐされ 指間の湿疹 皮膚病 水虫《日ポ》
あにき あにじゃ あんじゃもん【兄貴】 **elder brother** 兄《京》
あにゃーひゃーる あねーへーる《五和》 穴へ入る
あねさん あねじょ〈姉上 姉嬢〉 **elder sister** 姉さん
あのようなこつば あのようなこつば あんな酷い事を 無茶
あば 新品 初物 初下ろし 更の品 ②処女 **virgin**
あばあばしとる ぶかぶかしている
あばおろし 初下ろし 新品を初めて使う ②初体験
あばかん 溢れる はみ出る 沢山 存分 潤沢《日ポ》
あばききらん あばつきらん 溢れる はみ出る ②沢山に
あばく【暴く】 **expose** 秘密を暴露する 掘り出す
あばくる《日ポ》 あばける 化膿する 火傷の傷口が爛れる

あばたづら あぶだ【痘痕】《梵語》pock mark 天然痘の後遺症 痘瘡後に残る傷あと
あばら あばらばね【肋骨】rib 胸の骨 隙間
あばらや 古語【荒ら屋】 荒れ果てた家 ②自宅の謙称
あばりんとして 啞然として《高浜》
あばるる 古語【暴る】 乱暴する 騒動する
あばるんな【暴れるな】 乱暴するな 騒動するな
あばれかすな 暴れさせるな
あばれもん【暴れ者】 乱暴者 異端者
あぶくぜん【泡銭】 勞せずに得た金
あぶし 畦 畦畔 田畑の土手
あぶする あぶせる 古語【浴す】 浴びせる
あぶなか あぶなしか あむなか【危ない】dangerous 危険
あぶにゃー《京》 あぶねー 危うく 危ない処で 辛うじて
あぶのーい あぶのうして 危な気だ insecurity 不安だ
あぶのうなか あむのうなか 危なくない 安全だ
あぶらうる〈油売る〉 ②仕事を怠ける《京》
あぶらぎっとる あぶらぎる 皮膚が脂肪で光る 脂肪過多
あぶらげ【油揚げ】 揚げ物 fried food《京》
あぶらすまし あぶらすめ 搾油 「油澄めどん」搾油所・精油所
搾油して不純物を除去する（澄ます）
あぶらすむる〈油澄むる〉 搾油する 精油
あぶらひく 油を敷く 油を塗る
あぶりこ 古語【焙り籠 炙り子】 餅や魚等を焼く金網
あぶる 古語【浴ぶ】bathe 浴びる ②体に受ける 被る
あぶる【炙る 焙る】 火にかざして軽く焼く roast《京》
あふるる 古語【溢る】 溢れる 容器から零れる overflow
あぶれもん【溢れ者】 浪人 失業者 ならず者
あべこべ 互い違い ちぐはぐ 反対 逆様
あべさする 古語【浴す】 浴びさせる 入浴させる
あほ あほたん あほんだら あんぼんたん 古語【阿呆】fool
阿呆蛇羅経を文字ったことば《日ゴ》 馬鹿 頓馬 間抜け 外れ者
あぼ あぼー あぼうどん あぼさん あぼどん 兄さん
あぼしゅ あぼしゅー 兄 ②若者 青年衆 young man
あほらしい《京》 あほらしか 馬鹿馬鹿しい 引き合わない
あまい 暴れる 騒ぐ《牛深・苓北》
あまうち 古語【雨打】 雨落 雨内 軒下
あまえかす あまえきゃーとる あまえけーとる 甘やかす
あまか【甘い】sweet 塩甘い 声が優しい ②手緩い loose
あまがい あまがえ あまがゆ【甘粥】 甘酒
あまがみ【甘噛み】 (獣などが) じゃれて軽く噛む

あまがりー あまがるか【甘辛い】

あまがわ 古語【甘皮^{あまがいは}】 木や果実の内側の薄い皮

あまくさぞう【天草族】 天草土着の人 一族 子孫

あまぐされ【雨腐れ】 雨に濡れて腐る

あまごい 古語【雨乞ひ】 神仏に降雨を祈願する

あまざらしひざらし【雨晒し日晒し】 雨や日光に晒す

あまづっぱか 甘酸っぱい

あまたらしか あまったらしか 甘ったるい 甘い

あまちぎる 甘味が強い

あまつさえ 古語【剩^{あまつさ}へ】 その上 更に そればかりか

あまったら 甘えん坊 我儘な児

あまっつろうば あまっつろうば あまろうば 余ったならば

あまっどもん あまろうもん 余るでしょう

あまねく 古語【普^{あまね}く 遍^{あまね}し】 universally 広く一般に 全てに

あまめ 油虫 ゴキブリ cockroach ゴキブリ科の昆虫

あまめ 舟虫 海岸などにいる昆虫

あまゆい《牛深》あまゆる 古語【甘ゆ】 fawn 甘える 好意に頼る ②我儘を云う

あまゆんな 甘えるな

あまらん 古語【余らぬ】 余らない 余裕がない 残らない

あまりかかる あまりかくる じゃれつく 巫山戯^{ふざけ}掛ける

あまりこぼりしとる〈余り零れ〉 remain 充足 満足する

あまりもん【余ら物】 使い残し 余分物

あまりや一せんどかい 余りはしないだろうか

あまる 戯れる 巫山戯^{ふざけ}る じゃれる

あまンじゃく《京》 あまンしゃぐま 古語【天の邪鬼】《梵語》

捻くれ者 へそ曲がり つむじまがり

あまんな 巫山戯^{ふざけ}るな じゃれるな 戯れるな

あみやーもん あめーもん 甘いものだ 寛大

あむない《京》 あむなか【危ない】 dangerous 危険だ

あめんあゆる 雨が降る

あめんちょ あめんちょろ【飴】 canday 砂糖を主材料とした洋菓子

あも あもあも 幼児語 お化け

あもうい あもうして 甘くて

あもうしなる あもうひなる 甘くなる ②緩くなる

あや一た 落とした ②紛失した ③除去した

あやかす 古語【落ゆ】 fall 落とす ②汚れを落とす

あやかる 古語【肖る】 優れた人に感化して似る《京》

あやしか【怪しい】 疑わしい 信用できない 秘密がありそうだ

あやしゅうなる 怪しくなる 様子がおかしくなる

あやす《日ポ》 古語【落ゆ^あ】 fall 物を落とす ②遺失する ③汚れを落とす ④零す

あやす 子どもの機嫌をとる 子どもを宥^{なだ}める fondle
あやつ 古語【彼奴】chap [あの人]の卑語 彼 奴
あやつだ あやつだ 奴等は 彼等は あの子等は
あやばしか 危なっかしい insecurity
あやふつきる 息を切らす《大道》
あやふや 曖昧 ambiguity vague 不明瞭《京》
あやまち 失敗 事故 怪我
あゆうで あゆで 古語【歩^{あゆ}ぶ】walk 歩いて
あゆうでさるく あゆっさるく ありーっさるく 歩き廻る 出歩く 彷徨^{さまよ}う
あゆうでな あゆうでね あゆうでや 古語【歩^{あゆ}ぶ】 歩いてですか
あゆっけ ありーっけ 古語【歩^{あゆ}く】 歩いて来い
あゆばえん あゆびえん あゆびきらん 歩けない
あゆぼん あゆぼごんなか 歩かない 歩きたくない
あゆびきる あゆびゆる 歩ける 歩くことができる
あゆびつけとる 歩き慣れている 常々歩いている
あゆびでノある あるきでンある 歩く距離が長い ②歩く運動量がある
あゆぶ ありく 古語【歩^{あゆ}ぶ】 歩く walk
あゆぼい あゆぼだ あゆぼわい 歩きましょう
あゆる 古語【落^あゆ】 落果 落雷 汚れが落ちる ②降雨《日ボ》
あゆる 古語【和^あゆ】 和える 壺える 色々な食材を混ぜ合わせる
あよ あよあよ あよまた あろー あらま おやおや
あよっこい あよっこいしよ あら… あらまー 弱ったな やれやれ oh! my god
あよわしい あよわしか 弱々しい 貧弱だ 不安だ
あら【粗】 魚料理で刺身を作った残り部分 ②欠点《京》
あら あらー あれ おや ほら あれは《京》
あらあら 古語【粗^{あら}々】 大雑把 ②殆ど 大体 大方
あらあらい あらありやー あらあれー【粗洗い】 軽く洗う
あらいこ ありやーこ あれーこ 粉石鹸
あらいご ありーいごう【洗い井川】 野菜洗い場 洗濯場
あらいざらい あらいざれー〈洗い浚い〉 包み隠し無く《京》
あらいざらし〈洗い晒し〉 色褪めした衣服
あらか 古語【荒^あい】 wild 粗雑で激しい 乱暴 ②厳しい
あらか 古語【粗^あい】 目が粗い 大雑把
あらかた【粗方】 almost 殆ど 大体 大方 大部分《京》
あらかる〈粗かる〉 大体片づく 完了間近
あらかやーて あらけーて あれーて 荒らして
あらくたましか 古語【荒^あくまし】 荒っぽい rough 粗暴
あらくる〈粗ける〉 大方仕事が片付く 大部分終了する
あらぐる 声を荒くする 大声を出す
あらぐれ〈粗塊〉 粗い土塊を細かくする 粗田を犁き返す

あらぐれかき〈粗塊搔き〉 粗田の犁き返し 植え代の前準備
あらぐれつくる 粗い土塊に水を浸して搔き均す 植え代
あらさー あらさどうか 荒いことよ (粗暴をいなす)
あらさがしする あらさがす 欠点を暴き出す《京》
あらじゃこて あらじゃね あらじゃま 有る筈だ 必ず有る
あらず あらっす あられる お有りになる
あらたか 古語【灼か】 神仏の靈験が著しい ご利益がある
あらだき【粗炊き】 魚の粗を煮付けた料理
あらなわ 藁で編った縄
あらぬか【粗糠】 粃殻 玄米を取った殻
あらばんじょう【粗万状】 粗雑に 荒々しく
あらひきだす 古語【荒 粗】 人の失敗や欠点を暴く
あらぶり〈荒降り〉 勢いよく降る雨
あらまし 大略 nearly 概略 大凡 大方 一通り《京》
あらよっこいしょ あらまー 弱ったな やれやれ oh! my god
あられむなか あられむにやー 古語【有られぬ】 あるはずがない とんでもない
あられんこつ 望ましくないこと とんでもないこと
あらンこつ 古語【有らぬ】 関係無いこと 他のこと
あらンほうみーて 他の方を見て ②視線を反らして
あり ある 奴 あれ ②あそこにある物
ありあわせ【有合】ありやー at hand その場にある残り物
ありー ありきやー …けー …や あんね あれか ②奴か
ありーろ あるだろうか 残っているだろうか
ありえん【有り得ぬ】 有るはずがない 不可能
ありか 古語【有り処】 物の在る処 所在 ②隠れ家
ありが あるが あれが あ奴が
ありかい ありきやー ありけー ありやー あれですか
ありがごて 彼のように あ奴のように
ありがたか ありがちやー ありがてー 古語【有り難し】《梵語》
ありがつ ありがと あるがつ あるがと 彼の物
ありから ありかる あるかり あれから あれ以来 その後
ありきたり あり振れている ②元からある
ありきり ありぎり 古語【有り切り】 全部《京》
ありぎり あの時以来 あの時を最後に
ありく 古語【歩^{あり}く】 足で動く 何かをして廻る
ありこり そり どり あれこれ それ どれ 〈れ→り転音〉
ありさにや ありさね ありさん あそこへ
ありしこ あれしこ あんだけ あれだけ あれ程
ありそうな ありそうなもん あるごたる ありそうだ
ありてい【有体】 truth 有りのまま 正直に

ありば あるば あれを
ありふれとる【有り触れ】common 何処でもある 珍しくない
ありまっしえ(せ)ん ありやっしえ(せ)ん 有りません
ありも あれん あれも 彼も
ありも こりも そりも あれも これも それも 手当たり次第
ありもせんこつ 事実でないこと 有り得ないこと
ありや ありやー【有合】 有り合わせ at hand その場にある残り物
ありや ありやー あれっ あれえ
ありや ありやー あれは あ奴は
ありやありや あれあれ あれよあれよ
ありやー あれー【粗い】coarse ②荒い wild
ありやーこりやすんな あれこれ気を散らすな
ありやーすっどばって あるにはあるだろうけど
ありやーせんどかい ありはしないだろうか
ありやーた あれーた 荒らした
ありやーとる あれーとる 荒らしている
ありやーもん あれーもん 荒いものだ 乱暴なものだ
ありやす あります ございます
ありやすど あるでしょう
ありやすどかい あるでしょうか 実施されるでしょうか
ありやすみやー ありやすめー ありますまい ないでしょう
ありやっせん ありません ございません
ありやよっこいしよ あらどうしましょう やれやれ oh! my god
ありように 古語【有り様】 実際に ありの俛に 隠しなしに
ありよか ありよっか ありよった ありよりか あれよりも
ありよなはなしが 実際の話が ありのまま話せば
ありよる 実施されている 行われている
ありよんところ〈有り様の処〉 実のところ 実際の話が
ある 奴 あれ 彼 ②奴か あれか ③あそこにある物
ある 催される 実施される ②何時か 「祭ンある」
あるう【洗う】wash 洗い流す 汚れを落とす ②詮索する
あるうた あるた あろた【洗った】 清めた
あるうつけ あるうてけ あるつけ あろつけ 洗って来い
あるうてへーとく 洗って干しておく
あるうとけ あるとけ あろとけ 洗っておけ
…あるか …状態か …ですか 「今、何時あるか」
あるがー あるばえ 有るよ 在るのだよ
あるかい あるきやー あるけー あるね あるや 有るか
あるかんかい 歩きなさい ②早く行きなさい《京》
あるぎー あるぎっと あるぎりや あるぎんにや 有るなら

あるぎり【在る限り】 全部 ある間 在庫分だけ
あるけん あるせん 有るから 在るので
あるこつなかこつ 有ること無いこと 何でも
あるささ あるはざ 有る間 在庫分だけ
あるさにゃ あるさね あるさん あれー あそこへ
あるじえ あるっばい あるっばな あるっぺー 有りますよ 《佐伊津》
あるしえ(せ)な あるっしえ(せ)な 有るので《佐伊津》
あるしこ 有るだけ 残り全部
あるっかい あるとなー 有りますか《佐伊津》
あるば あるばっ あるばって だけど《新和》
あるばい あるわい 有るかもしれない
あるばえ あるびゃー あるべー あるもん 有るよ
あるはざ 有る間 在庫分だけ
あるはざーなか あるはざなか ある筈がない
あるばしするごつ あるばしノごつ あるばしんごつ 有る筈がないのに
あるばって そうだけど
あるべし 当然あること 必ずあること
あるみゃー あるめーだ あるめーもん 無いだろうよ
あるもね あろが 有るではないか
あるもんか あるもんきゃー あるもんけー 有るものか
あるもんで 有合せで その場に有る物で 残り物で
あるよか あるよっか あるよった あるよるか あれよりも
あるる 古語【荒る】 荒れる ②乱れる ③寂れる《京》
あれ 古語【彼】 奴 ②あそこにある物
あれー あれーこ【粗粉】 米の粉 餅取粉
あれーもん 洗濯物
あれーよかとん あればよかばって 有ればよいが
あれきゃーとる あれけーとる 荒らしている
あれば あろうば 有るならば 在ったならば
あれば あろば それでは それならば だったら
あればあるもん たくさん有るものだ
アレルギー 《ドイツ語》Allergie 過敏症体質
あれん 荒れない 穏やかである
あれん これん それん あれも これも それも
あろ あろー あろば それでは それならば
あろー あろばー おやまあ まあ どうしましょう
あろうかい あろうきゃ あろうけ あろうに 有る筈がない
あろうがなかろうが 在ってもなくても
あろうこつか 不測の事 あってはならないこと
あろうば あろば 有るならば 有るようであれば それでは

あろうはずがなか あろうはずンなか 有るはずが無い
あろうもんなら 有るものなら
あろば それでは
あろバまたどん それでは又にでも
あわぐ【煽る】fan 扇子などで風を送る
あわくう〈泡食う〉 驚き慌てる 度肝を抜く 狼狽する
あわけ【煽げ】 扇子などで風を送れ
あわする 古語【会わす】 会わせる 面会させる
あわする 古語【合わす】 合わせる 同調する ②混合する
あわつる 古語【慌つ】 急ぐ 狼狽える《日ポ》
あわつんな 慌てるな 急ぐな 狼狽えるな
あわてふため一た 大慌てした
あわてもん あわてんぼ【慌て者】
あわふつかぶる 沸騰して泡が噴きこぼれる
あわぶく あわぶつく あわぶつつ【泡粒】
あわん 古語【会わぬ】 会わない 会いたくない
あわん 古語【合わぬ】 合わない ②採算がとれない
あわんずく 会わないまま
あわんとンあいどがー あんなのがあるだろう《牛深》
あゑえーだ あゑやーだ【扇いだ】 風に煽られた
あゑえーつくれ あゑやーつくれ 扇いで呉れ
あん【彼の】 彼の that あれ あそこの 「あんわれ」
アンカー anchor 錨 船を停泊させるため海底へ降ろす錘
あんかんと 古語【安閑】leisure 安気に 呑気に ぼんやり
あんき 古語【安気】 安泰 気楽 ease 心配ない 呑気《京》
あんきか 古語【安気だ】 気楽だ 心配ない 呑気だ
あんくりやーだ あんくりやどま あんくりやどん あれ位は
あんくれーだ あんくれどま あんくれどん あれ位は
あんけんとして 安気にして 呑気で ぼんやりして
あんご【姉】elder sister 《楠甫》
あんこらー あんじぶんな あんとうじゃー あの頃は
あんさん あんち あんちゃん 兄 兄さん
あんし〈あの衆〉 あの人たち
あんじあたらん〈暗示〉hint 思い当たらない ②懲りない
あんじあたる あんじつく 思い出す 思い当たる
あんじあんじして よく噛んで(幼児語)
あんじがけんなか 思いも寄らない
あんしこーみろ〈姿格好〉 あの格好を見ろよ
あんじごと【案じ事】 思案 thought 考え事 心配事
あんじださん あんじつかん 思い出せない 考えが及ばない

あんじてみれば 考えてみれば 顧みると
あんしと あんひと あんふと 〈あの人〉 彼の方
あんじもせん 思いもよらない
あんじゃもん【兄者者】 あんしやん あんやん 兄さん elder brothe
あんじゅ【庵住】 あんじゅさん 庵の住職 ②尼僧 nun 《京》
あんじょ あの子 彼の人 ②あ奴
あんじょう 古語【あんぢょう】 首尾良く 具合良く 《京》
あんじる あんずる【案じる】 思慮する 心配する 《京》
あんじん 思わない 思ってもいない
あんた【貴方 貴殿】 あなた you ②夫の呼称
あんたえ あんたげ あんたどこ【貴家】 貴方の家 貴宅
あんたがた あんたし あんたたち あんたち あなた方
あんたが大將 高慢ちき 野放図(罵言)
あんたじゃろー あんたもあんた あなたとしたことが
あんちきしょう あんつくしょう【畜生】 brute あの野郎
あんつれ あの連中 ②あの種類 あの類 一連の
「あんつれんとんとんとつれんとん」
あんて あの種類 ②あの型式 ③あの手法
あんで だから ですから 《牛深》
あんなー 《京》 あんにゃー あんねー あんのー あのね
あんなーり あんなり 《京》 あの時以来 あのまま
あんなさる あんなす お在りになる 「達者うあんなす」
あんなし【餡無し】 餡がない餅や団子のこと
あんなり あの服装 あの格好 《京》
あんなれ あんなん 〈あの女〉 あんひと あんふと あの人
あんにゃ あんねー【案内】 guide 知らせ 手引き ②招待
あんね あんねさん【姉】 elder sister 姉さん ②婦人
あんの こんの そんの あれとか これとか それとか
あんのじゅう【案の定】 案じた通り
あんのだら 有りのまます 真実を 《上津深江》
あんばい 《日ポ・京》 あんびや あんべー 古語【塩梅】 塩加減 taste
②程合 体調 condition 調子 tune
あんばんよか あんびやんよか あんべんよか 塩加減がよい
②具合がよい 気分がよい mood
あんびあんび 幼児語 よちよち歩き
あんひた あんふた あんまりや あんわりや あの方は
あんびやーみー あんべーみー 成り行きを見定める 観察
あんびやんわるか あんべんわるか 具合が悪い 気分が悪い
あんぼし 干し柿 《牛深 河浦》
あんぽん あんぽんたん 人を小馬鹿にして言うことば

あんま あんまり 古語【余り】《京》 余りにも 非常に たいして それ程
あんまい 《牛深》 余りにも 非常に
あんまっぞ あんまりぞ …じゃん 酷過ぎるよ 過酷だよ
あんまりしたこつ 余りにも酷いこと
あんまれ あんわり あんわれ〈あの吾〉 あの人 彼 he
あんもん〈あの者〉 あの人 彼 he 《高浜 大江》
あんやん 彼 兄さん elder brothe
あんよ【足】 歩行 (幼児語)《京都》
あんわんノつ あの人物《竜ヶ岳》

[トップページへ戻る](#)